

枚方市立図書館分室等の見直しに関する
基本的な考え方（案）

平成 29 年 2 月

枚方市教育委員会

はじめに

図書館分室(以下「分室」という。)は、昭和 48 年に家庭・地域文庫を市の分室として5分室(香里、津田、中宮、禁野、野田)を整備したことに始まります。地元要望等をもとに自治会館内などに次々と開設し、昭和 50 年代には、最大 16 分室を運営していました。

また、自動車文庫は、貸出を中心にした図書館サービスの提供と利用者の掘り起こしを主な目的に、「ひなぎく号(市民から公募した愛称)」が昭和 48 年から運行を開始し、昭和 56 年には最大 53 ステーションを巡回していました。

一方、図書館分館(以下「分館」という。)については、昭和 49 年の香里ヶ丘図書館の開設をはじめに、楠葉図書館(昭和 57 年)、蹉跎図書館(昭和 61 年)、御殿山図書館(昭和 62 年)、牧野図書館(昭和 63 年)、津田図書館(平成 2 年)、菅原図書館(平成 9 年)と、順次、整備を進めてきました。また、平成 17 年には中央図書館を開設しました。同時に、これらの図書館の開設にあわせて、分室や自動車文庫のステーションの見直しを進めてきたところです。

そして、図書館コンピュータネットワークシステムや図書の配本システムを基盤として、インターネットによる蔵書検索や図書の予約を可能にするとともに、宅配サービスを実施しました。また、指定管理者制度導入館においては開館時間を拡大するなど、様々な面で、図書館サービスの充実を進めてきました。

また、自動車文庫については、病院や地域の子育て施設に集まる在宅の子どもたちへの配本サービスといったアウトリーチサービスの希望が増えています。

このたび香里ヶ丘図書館の建替え事業等を進めるにあたり、こうした図書館を取り巻く状況変化を踏まえ、「枚方市新行政改革実施プラン」及び「枚方市立図書館第3次グランドビジョン」に基づき、枚方市立図書館分室等の見直しに関する基本的な考え方(案)をまとめたものです。

1. 趣旨

人口減少、財源の減少、IT化の進展など、図書館サービスの環境変化が著しい中、施設の老朽化、実利用人数や貸出冊数などの稼働状況などを踏まえると、図書館分室等については、様々な見直しが必要となっています。

「枚方市立図書館第3次グランドビジョン」では、分室は地域密着型の特性を生かし、「地域住民の居場所としての機能の強化」の方向性を示すとともに、施設配置の検討と合わせて別途見直し計画を策定するとしています。

「枚方市立図書館分室等の見直しに関する基本的な考え方(案)」は、分室等の見直しに関する基本的な方向性等について、教育委員会としての考え方を示すもので、今後、議会や市民の意見を聴くとともに、大きな変更を行う分室については、当該地域団体との協議を進め、別途、個別の見直し計画を策定することとします。

2. 分室の経過

(1)分室の成立

昭和48年、家庭・地域文庫を市が分室として整備、5分室(香里、津田、中宮、禁野、野田)を始め、地元要望等を元に自治会館内等に次々と開設し、地域に根ざした図書館活動と全域サービスをめざしました。

(2)～昭和 56 年

枚方図書館・香里ヶ丘図書館・分室・自動車文庫による図書館運営をする中で、昭和55年度の分室における貸出比率は図書館全体の45%になりました。

(3)昭和 57 年～

「枚方市立図書館整備計画」に基づく分館、中央館建設に伴って、分室の統廃合(禁野・野田・南船橋・招提各分室の閉室、山田分館の分室化)を行いました。平成27年度の分室貸出比率は11.8%(市駅前サテライトを除く)となりました。

3. 現在の図書館分室

(1)分室名

10分室(枚方公園・村野・山田・藤阪・香里園・宮之阪・東香里・氷室・茄子作・釈尊寺)

(2)開室日

週4日～5日、曜日はそれぞれ異なる。

(3)開室時間

枚方公園・村野は6.5時間。その他は4時間

(4)職員配置

非正規職員の2～4人配置(中央図書館がバックアップを行う)

(5)開室日・時間・人員体制

10分室の開室日・時間・人員体制は、次表のとおりです。

分室名	開室日	開室時間	職員数	臨時職員数
枚方公園分室	水～日	10:30～17:00	4	
村野分室	月水金土日		4	
山田分室	月水金土	13:00～17:00	2	1
藤阪分室			3	
香里園分室			3	
宮之阪分室	3			
東香里分室	月水木土		2	
氷室分室			2	1
茄子作分室			2	
釈尊寺分室			2	
釈尊寺分室	水木金土			

(6)利用圏域等

図書館のサービス圏域について本市では、概ね半径1.2km程度の範囲としています。なお、枚方市立中央図書館は、分館の4～5倍の蔵書を有するとともに様々な機能を有していることから、地域の図書館としては分館の倍以上(概ね2.4km)を範囲とし、なおかつ市内全域をカバーしていると想定しています。また、新たに建て替える香里ヶ丘図書館は、閲覧室を現在の2倍(分館で最大の560㎡)にし、機能を強化することから、半径1.5km程度の範囲とする考えです。

こうしたことを踏まえると、山田分室は中央図書館の圏域内に、東香里・茄子作・釈尊寺分室については建替え後の香里ヶ丘図書館の圏域内に位置しています。また、藤阪分室は津田図書館・菅原図書館の間に位置し、両館と圏域が重なっています。

4. 現分室の課題

(1)利用状況

分室の利用状況の推移等は、【資料編 分室等】①のとおりです。

釈尊寺・茄子作・山田・東香里・氷室の5分室については、直近5年平均の年間貸出冊数が3万5千冊以下。釈尊寺・氷室・東香里・茄子作の4分室については、年間実利用者数(年に1度でも利用したことのある人の数)が年間1,000人以下。東香里・釈尊寺・茄子作・山田の4分室については、延べ来室者数が1日あたり60人以下となっています。

(2)開室時間・曜日

開室時間・曜日が限定されて不便、わかりにくい、祝日に利用したいなどの市民の声が市政モニターや図書館でのアンケートなどに寄せられています。

これを受けて夏季開室を継続試行している氷室分室に加え、平成26～28年度に藤阪・宮之阪分室で午前開室を試行実施していますが、利用状況の著しい変化はみられませんでした。宮之阪分室では、京阪宮之阪駅高架下に位置し駅乗降客の利用が見込まれることから、平成28年11月から平日午後6時半までの夜間開室を試行実施中です。

(3)職員

開設当初から非正規職員による少人数で運営しており、現在では、中央図書館がバックアップしています。引き続き、経験年数等を考慮した職員の組み合わせなど、適正な人員配置・確保が必要です。

(4)施設

著しい老朽化やバリアフリー化の遅れなどとともに、そもそも市有建築物でないなど、施設上の課題を抱えた分室が多くあります。施設上の課題概要と分室名は、下表のとおりです。

	枚方公園	村野	山田	藤阪	香里園	宮之阪	東香里	氷室	茄子作	積尊寺
建物が市の所有でない							△		○	○
著しい老朽化			○							
エレベーターがない(2階)					○		○			○
入口や通路が狭い				○		○				○
入口に段差、靴を脱いで利用					○		○		○	○
土砂災害警戒区域指定					○					
駐車場がない				○	○	○			○	○
駐車場が狭い			○				○			

※東香里分室は2階のみ区分所有

5. 分室の見直し方向

インターネットの普及とともに、市立図書館でも平成21年度には全館・全分室をオンライン化し、インターネットからの蔵書検索と予約が可能になりました。また、図書館の開館時間を拡大したことで、通勤・通学等の経路での予約本受取りの可能性が拡大し、祝日開館による利用の広がりもみられます。その他、自宅に本が届く宅配サービスの整備により、障害者や高齢者の方々など、市民の利用の幅が広がりました。

しかし、一方で、市立図書館の施設数が他の自治体と比較して多く、一部の分室では利用圏域の重なりも見られることから、費用対効果の観点で、職員を配置し、図書館サービスを提供する施設として運営することを見直す必要がある分室があります。

そこで、そうした大きな変更を伴う見直しを行う分室については、新たな方向性に関する教育委員会としての考え方を示し、個別の見直し計画の策定に向けて、当該地域団体と協議することとします。

(1) 検討対象分室

今回の見直しについては、次の4つの観点で検討し、対象分室を山田・東香里・茄子作・釈尊寺の各室とします。

	枚方公園	村野	山田	藤阪	香里園	宮之阪	東香里	氷室	茄子作	釈尊寺
施設の所有状況 ※1							△		○	○
施設状況 ※2			○	○	○	○	○		○	○
利用圏域 ※3			○	○			○		○	○
利用状況 ※4			○				○	○	○	○

※1:市が所有権を持っているかどうか ※2:前ページ(4)施設参照 ※3:3ページ(6)参照、利用圏域が重なっているかどうか ※4:年間実利用者数 1,000 人以下またはのべ来館者数 1 日 60 人以下

(2) 見直しの方向性

検討対象分室ごとの見直しの方向性に関する考え方は、下表のとおりです。

分室名	見直しの方向性に関する考え方
茄子作 東香里 釈尊寺	高齢者や子育てなどの地域における課題を踏まえ、職員配置を伴う図書館分室サービスから、図書館から団体図書貸し出し等の支援を行う、「本のある地域の新たな居場所づくり支援」へ転換する。 新たな香里ヶ丘図書館の開館を見据え、地元等と協議をすすめ、平成30年度までに具体的な見直し計画を策定する。
山田	庁内検討を行った上で、他の政策目的施設への転用を図る方向で、見直しを行う。

なお、香里園、藤阪、宮之阪、氷室の4分室については、施設の点検を行い、老朽化やバリアフリーへの対応を検討するとともに、利用状況の推移を注視していきます。

6. 自動車文庫

自動車文庫事業は、窓口で来館者を待つ一般的な図書館業務のイメージとは異なり、市民の近くまで図書館資料を運んで貸出や読書相談等を行うサービスです。枚方市では平成48年の市立図書館開設当初から運行し、図書の貸出とともに、図書館利用掘り起こしの役割を担っていました。その活動は、利用の増加とともに分室などの固定施設の設置へ結びつきました。

平成28年度から平成32年度までの図書館サービスの方向性を示した「枚方市立図書館第3次グランドビジョン」では、「自動車文庫のあり方の再構築」として、自動車文庫の活用方法の再構築、ステーション(自動車文庫での貸出場所)配置の見直しに具体的に取り組んで行くことをあげています。

市立図書館の役割を見直し、明確にしていくことが求められている中、自動車文庫についても、枚方市の人口、財源等の状況を踏まえた、効果的な事業とすることを検討します。

(1)これまでの経緯

①自動車文庫の成立

本庁から香里ヶ丘図書館へ基地を移し、昭和48年に1台29ステーションでスタートしました。翌年には1台増車し40ステーションを巡回。集合住宅や地域自治会などからの要望により、ステーションを増設しました。どのステーションでも大勢の市民が自動車文庫の到着を待っており、1時間で約700冊を貸出すところもありました。昭和56年には53ステーション(最大数)になりました。

②分室、分館の建設による役割の縮小とアウトリーチ活用の萌芽

昭和50年代以降、次々と分室、分館の建設を進めることで自動車文庫の役割が徐々に縮小していくとともに、道路事情や安全面等から路上のステーションを廃止するなど、次第にステーション数を減らしてきました。平成23年度には中型車1台を岩手県の被災地で活動するボランティア団体に寄贈し、現在自動車文庫1台の24ステーションでの運営をしています。

一方で、病院や高齢者施設、学校等、施設へのサービス展開も行ない、自動車文庫の機動性を生かしたアウトリーチ活動への要望も出てきています。

(2)今後の取り組みの方向

①当面の取組

利用の少ないステーションや路上ステーションを見直し、要望もあり、検討も進めてきた学齢前の子育て拠点や病院施設などへのアウトリーチサービスを実施します。

②中期的な取組

建替えを予定している香里ヶ丘図書館の工事中(平成30年度からの2年間強)に、代替サービスを行っていきます。一時的に図書館サービスを中断せざるを得ないといった場合にも、自動車文庫が持つ機動力を活用していきます。

③長期的な取組

地域や施設への配本事業を充実し、アウトリーチサービスを強化していく中では、ブックトラックを積載することができ小回りがきくリフト付貨物車の役割が大きくなってきます。大型の自動車文庫「ひなぎく号」で担ってきた役割を、リフト付貨物車へ引き継いでいきます。

【資料編 分室等】

- ①分室利用状況
- ②枚方市立図書館サービス圏域図
- ③自動車文庫利用状況
- ④分室概要(所在地・開室日と時間・開設年月・敷地面積・建物面積・建物構造・土地所有者・建物所有者)